

授業概要

経済学の理論は、経済学の歴史を学ぶことで深く広いものになる。経済学では、古いと思われた理論が新しい理論として復活することがしばしば生じる。したがって、経済学の歴史は、現代の経済学やこれからの経済学にとっても不可欠のものである。この点を踏まえて、経済学に関する主要な学者の学説を理解するように講義する。経済学の変遷と現在の経済学の性格について基本的な点を理解するように講義する。

授業計画

第1回	経済学の歴史の概要
第2回	古代ギリシャの経済学
第3回	中世の経済学
第4回	重商主義の理論
第5回	貨幣数量説の形成
第6回	ジェームズ・スチュアートの経済学
第7回	アダム・スミスの経済学(1)－経済思想
第8回	アダム・スミスの経済学(2)－分業と価値
第9回	リカードウの経済学
第10回	マルサスの経済学と人口論
第11回	J.S.ミルの経済学
第12回	マルクスの経済学(1)－価値形態論
第13回	マルクスの経済学(2)－剰余価値論
第14回	限界効用理論
第15回	ケインズの経済学
第16回	定期試験

到達目標

主要な経済学者の学説の基本を習得すること
経済学の歴史を基本的な点で知ること

履修上の注意

心構えとして、授業で取り上げる経済学者の問題関心が何であったのかを理解するようにすること

予習復習

ノートを中心に学習すること
経済に関する時事問題に関心を持つこと

評価方法

定期試験・中間試験・レポートによる。定期試験 60%、中間試験 30%、レポート 10%の配点とする。ただし変更する場合もある。

テキスト

必要に応じて授業中に参考文献を指示する